

視察研修報告

総務産業委員会

令和6年8月5日、所管事務の視察研修を実施しました。

調査事項

長野県小諸市を訪れ、空き家問題と移住推進、および防災対策について調査しました。

(1) 空き家問題と移住推進

小諸市では、最近急に移住者が増えているので、そこに注目し、成功事例を伺いに訪問しました。

移住推進に関する県と市の補助政策も手厚いものでしたが、移住者増加の第一の理由として、移住者が個別にしっかりと移住目的を持っていて、例えば、リモートワークしながら自然豊かな環境で生活したい、事業としてお店を出したい、家庭菜園をやりたい、あるいは、この地で新しい仕事にチャレンジしたい等の動機で移住してきているとのことでした。

きめ細かいサポート体制が大切 長野県小諸市

第二の理由として、それ

らの移住目的を持つ移住希望者に対して、市が個別に相談を受けながらきめ細かいサポートを提供していることで、移住をより現実的なものとしていけると考えられました。

これらの視察を基に、鳩山町の場合を考えてみると、首都圏に近い里山として、子育てがしやすく安全なことなど鳩山町の優位性を考慮しながら、移住者の移住目的に合致する移住モデルをつくって、きめ細かいサポート体制の構築が必要なのだということが分かりました。

(2) 防災対策について

小諸市防災と暮らしのガイドブック、A4サイズで136ページが全戸に配布されていて、生活関連情報に防災対策情報18ページも盛り込まれていました。

既に、鳩山町では便利帳を全戸に配布していますが、今後はこれら事例を参考に防災対策情報も充実させ、備蓄品や各戸別の対策を含めた内容を充実したいと考えました。(関根委員長)



小諸市の防災と暮らしのガイドブック



小諸市のパンフレット

《総務産業委員会》

小諸市では今後、人口増加の可能性が出てきたそうです。鳩山町と同じ企業誘致、移住促進、子育て支援等の施策と、新たな取り組みとして、民間企業との人・力・ノウハウ等の連携。直近の2年間で約500人の定住者が増えたそうです。(森)

小諸市では、これまで、移住・定住促進施策・企業誘致・空き家バンク・子育て・福祉施策・広報戦略など、様々な施策推進の努力の成果が数値からも理解出来ました。

新たな取り組みとして、民間企業との連携によりノウハウの構築。現在、郊外での新規出店や企業進出が続き、定住者の増加により持続可能な小諸市を感じました。(石井計)

小諸市の転入増の要因は、移住促進のその前に、空き店舗をなくし、賑わいのあるまちづくりを重視したこと。市内に行きたくなる店が増えれば、来訪者が増え活気が出ます。そして、住みたいまちづくりに繋げる。また、商店と行政の協力体制も参考になりました。(日坂)

常任委員会レポート

福祉文教委員会

令和6年8月6日、所管事務の視察研修を実施しました。

調査事項

長野県塩尻市を訪れ、平出（ひらいで）遺跡について調査しました。

縄文時代中期（5300年前）から平安時代（1000年前）の集落跡であり、以後、現代までも長期にわたり居住地であり続けた希有な場所として、1952年3月に15ヘクタールが国史跡に指定されました。

平成13年に平出遺跡整備基本計画を策定し、平成24年3月、平出遺跡公園が竣工しました。総事業費15億円ということでした。

平出遺跡公園ガイダンス棟は、史跡平出遺跡指定地公有化整備事業として、平成18年度工事が行われ、整備総事業費は1億109万円で、事業費内訳は、国が

ガイダンス棟建設が参考に 長野県塩尻市

4600万円（補助対象経費の50%）、県が460万円（補助対象経費の5%）、市が6031万円。

国宝重要文化財等保存整備費補助金を利用したということです。

ランニングコストは年間約1000万円。ボランティア団体の協力も大きいということです。

鳩山町でも、令和5年、南比企窯跡が国史跡に指定されたため、ガイダンス棟建設に関しては特に参考になりました。

きめ細かく説明していただき、委員の質問にも丁寧に答えてくださいました。

平出遺跡公園を、歴史の中で集落の構造や人々の生活、どう移り変わってきたのか。時の流れを感じながら、見学させていただきました。大変有意義な研修になりました。

（中山委員長）



ガイダンス棟



復元住居（古墳時代）



体験教室

《福祉文教委員会》

広い敷地内は市民の公園として活用され、施設の素晴らしさと共に、皆さんに親しまれている憩いの場でした。市民の支援組織がいくつか組織され、清掃や生垣の剪定、イベント支援などをされています。市民との連携が重要だと思いました。

（野田）

南比企窯跡群の国指定が決まり、どのように活用して、この遺跡を町民の宝とするか、研修先として長野県の平出遺跡を選びました。文化庁との話し合いでさまざまな意見が交わされ、予算もクリアし、日本三大遺跡として他に恥じない立派な施設が整備されました。鳩山町にも後世に残る施設を作りたいものです。

（松浪）

歴史を感じる数々の住居。平出遺跡から現地に復元された古墳時代約1300年前の住居は、円錐形で4本柱。古代の人々の暮らしを感じることができました。ガイダンス棟では、火起こしや土器作りなど体験学習も行われ、多くの人々が賑わうそうです。

（小鷹）

平出遺跡の視察を終えて、かつて鳩山の地に住み、そして生活の営みをした、古の人々を知る上での町にとって重要な歴史的遺産である国史跡「南比企窯跡」であることを再認識し、改めてその保存・活用していく活動に取り組みでいきたい。

（清水）